

# 奥入瀬川左岸に 親水公園を 支援制度の活用を 県と協議する



畑山 親弘  
(市民連合クラブ)

**議員** 近年、川と人との関係では「危険」というリスク面ばかりが強調され、水の恵みや大切な資源としての川を正しく理解してもらおう必要性を強く感じている。県のかままちづくり支援制度を活用し、奥入瀬川左岸ににぎわいのある水辺空間を創出する親水公園等を整備しては。

**建設部長**

支援制度は、地域の知恵を生かした河川空間の整備に有効と考えます。まずは河川管理者である県に川沿いの環境づくりの計画や支援制度を活用出来るか協議し、市民団体等と要望していきたいと考えています。

**議員**

市街地中心にある中央公園内には多様な体育施設があり恵まれた環境だ。老朽化等の問題は、

**教育部長**

相撲場上屋部分に関しては耐震診断の結果、倒壊の危険性があるため今年度解体撤去したところであり、今後の対応が大きな課題です。その

**議員**

他の施設は、維持・更新に努めています。大幅な改修をする場合、求められる施設基準が年々高くなっている。調査研究を進めていきたいと考えています。

**議員**

無償の国有地と聞くと、使用に当たって特別な条件はあるのか。

**建設部長**

都市公園として利用することを条件に

無償で借り受けています。



今後の対応が注目される相撲場

**議員**

八月以降の日照不足と低温による農作物の被害状況と対策は。

**市長**

県による水稲の調査で、不稔の発生割合が一割程度、登熟歩合は平年より半分程度遅れているとのこと。農協による野菜の調査では、ごぼうの黒条病による茎葉の被害、長ネギの軟腐病等の発生が確認されています。今後は関係機関と連携し、情報共有や被害状況の確認をした上で、刈り取りの適期や防除対策などの生産情報の発信や周知に重点的に取り組み、必要となる対策を考えていきます。



山 端 博  
(かけはし)

**議員**

本県は平均寿命が全国ワーストの短命県で、特に働き盛りの四、五十代の死亡率が高いようだ。近年、健康経営という言葉が注目を浴びており、従業員の健康増進が企業価値の向上、自治体の医療費抑制等のメリットをもたらすという考えが広がっている。企業の健康経営を市が支援する考えは。

**健康福祉部長**

今年度から希望に応じて企業へ出向、生活習慣病予防や心の健康づくりに関する健康教育、健康診断結果に沿った健康相談を行う事業を実施する予定です。健康経営に取り組む企業を市独自で認定することは考えていませんが、県の認定制度を積極的に周知するとともに、その認定に当たっては市の事業

## 健康づくりに取り組む 企業の支援を

### 県の制度の活用を 支援していく

を積極的に活用してもらいたいと考えています。

**議員**

大深内中、洞内小、松陽小をコミュニティ・スクールに指定して一年が経過したが、その成果は。

**教育部長**

各校では、児童生徒の実態と地域として育てたい子供の姿についての確認、経営方針や課題の解決に向けた協議と承認、伝統芸能の支援体制などの話し合いをします。その結果、秋まつりでの小中合同による駒踊りなど発表機会の見直しや校内の神楽クラブの新設など伝統芸能に対する地域の方々の支援体制や敬老会との交流が強化され、また三校合同での地域清掃活動のような学校行事が新設されるなど、

新たな視点で地域と学校教育を見直す機会となっています。

**議員**

課題と見通しは。

**教育部長**

各校とも意欲的に取り組んでおり、活動上の課題は報告されていません。今後は、地域と学校が密接に連携し効果を上げていく活動とともに、地域を活性化できる取り組みの充実を図ってきたいと考えています。



小中合同で参加した秋まつりの駒踊り